

# 平成29年度熊本市中学校体育研究会の取組

## 1 研究の目的

熊本市の背景から

近年、熊本市中学生の生活環境は、利便化や遊び場の減少、通信機器の普及等により、日常生活において子どもが体を動かす機会や質が変わってきたと考えられる。また、専門の種目に特化した勝つことを目的に運動を行う子どもと運動以外の活動に時間を取られる子どもの二極化が見られる。このような現状から、熊本市の各中学校では小学校時の体力向上の取組や実践の成果を基盤として保健体育授業を通して運動好きな子どもの育成や体力の向上、生涯にわたって運動に親しむ人間形成の実現に向け、研究の4つの視点から授業の改善や学び方の工夫を研究に取り組みたいと考えた。

## 2 研究主題

「自ら運動の喜びや楽しさを求め生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ体育学習の在り方」  
～転移する知識・技能を活用し、探求していくグループ活動の構築を目指して～

## 3 研究の構想（仮説・内容）について

### (1) 研究の仮説について

#### 研究の仮説

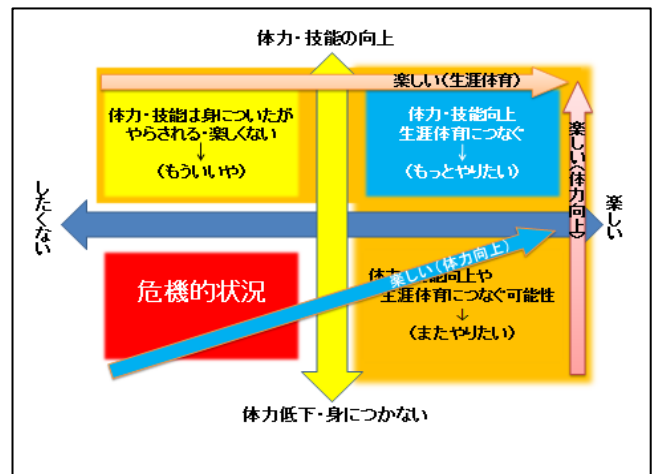
3年間を見通した学習内容を明確にするとともに、身に付けさせたいことへの評価の在り方を明らかにし、かつ、基礎・基本、活用力、自ら学び考える力を系統的に育成し、仲間とともに高め合う活動を工夫して取り入れていけば、自ら進んで運動の喜びや楽しさを味わい（※1）、生涯にわたって健やかな心と体をはぐくむ基礎が培われる（※2）だろう。

※1 自ら進んで運動の喜びや楽しさを味わうとは。

運動を「楽しい」と感じれば、意欲が高まり効果が上がる。

※2 生涯にわたって健やかな心と体をはぐくむ基礎が培われるとは。

学習の中で身につけた知識や技能を用いて授業以外で実施できる。

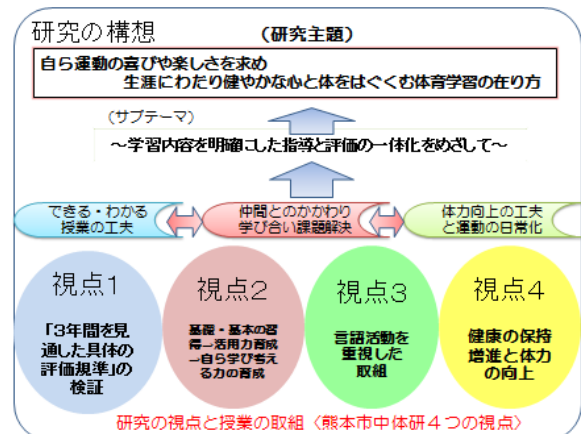


## 4 研究の実際 研究の視点について

「自ら進んで運動の喜びや楽しさを求め、生涯にわたり健やかな心と体をはぐくむ」ことを実現するために熊本市中体研の4つの視点から具体的な取組の定着を図った。

具体的な取組とは

体力テストにおいて、運動の愛好度がきらい・ふつうと答えた生徒と運動能力段階がD・Eの運動が苦手な生徒に対し手立てや取組を用いながら、運動を楽しみと感じ、学校内外において自ら進んで運動に取り組む生徒を育み、体力の向上を図る。



### 視点1 「3年間を見通した具体的評価規 準」の検証について

○指導すべき内容とその評価を確認

「学びわくわく授業研究会」及び「九州学校体育研究大会」を中心に各中学校の保健体育科授業研究では、評価規準試案表を基にした単元計画構造図を作成するようにした。特に1・2年生と3年生に分けて取り扱う内容を整理し明確にすることで指導内容と指導に対する評価のブレやねじれが生じないように注意を図る。

### 視点2 基礎・基本の習得→活用力 育成→自ら学び考える力の 育成について

○わかりやすい授業作り

生徒がわかりやすい「めあて」の提示や、理解しやすい「ことば」を使い、「本時の目標は何か、活動は何なのか、何が出来るようになるのか」などがどの生徒もわかるようにする。またUDの視点にたち、50分の流れを確認できるようにしたり、掲示物等を使用したりして、基礎的・基本的な内容習得のため、ICT機器を活用し視覚でも充分把握できるように示す。様々な工夫を用いながら本時の見通しが立つようにする。

○体育・保健の専門性を重視

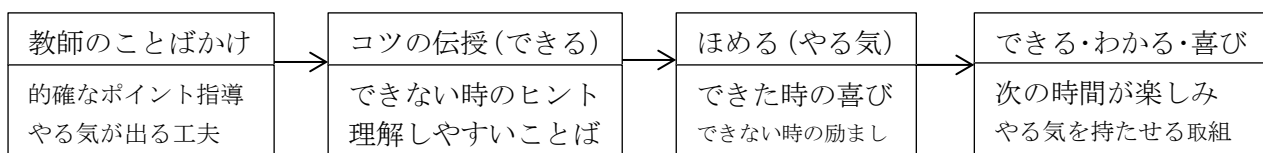
○練習やゲームの工夫

「できない生徒ができた」「わからない生徒がわかった」など楽しさを感じることが出来る単元の特性に触れたドリルゲーム・タスクゲーム等を実施する。また、授業の中で競い合ったり、友達と同じ動きをしたりして、ふだんと異なる運動感覚も経験させる。

○指導の工夫・改善

○教材・用具・資料の工夫

○運動の日常化につながる授業作り。○指導ことばの充実



### 視点3 言語活動を重視した取組について

○主体的、対話的で深い学びの実践

体育分野(体育理論)・保健分野ともに効果的なグループワークやペア学習・協働的な学び合い活動を取り入れ、活動や取組を振り返る場面を設定し、気づきや考えを述べる時間を確保する。また、友達と協力、協働しコツの確認しながら何度も繰り返すことで、できなかった運動ができるようになるような場面を設定する。保健分野では、身近な題材から様々な方法を取り入れたり、マトリックスシート等を用いたりして、思考・判断する力を高め実践及び生涯につながる活動を取り入れる。

### 視点4 健康の保持増進と体力の向上について

○準備運動の工夫

各単元や領域ごとで主運動に関連する運動や身に付けさせたい動きをウォーミングアップや準備運動として取り入れ、年間を通し単元の特性にふれながら、技能の向上と運動量を確保する。

学校毎に体力テストを分析し、現状の課題を明らかにして準備運動や補強運動等の工夫を行う。

○授業で学んだ内容を授業以外で実施できる

その時間や単元で完結することなく、学習の中で身につけた知識や、技能を用いて授業以外(始業前・業間・昼休み・放課後等)の場面でも運動に親しめるような課題を設定する。